

令和元年度事務事業評価シート

取組みコード 53112

区分	イベント	担当課	商工観光課	作成日	令和元年5月15日
事業名	宮ヶ瀬ダムナイト放流開催経費	開始年度	平成28年度	予算科目	6.1.3.4.1

1 事業の概要

総合計画での位置づけ	
部	第5部_多彩な産業の活力あるまちづくり
章	第3章_地域資源を活用した観光の振興
節	第1節_観光交流の促進
基本施策	1.地域の魅力を来訪者に伝える観光拠点の形成
取組みの基本方向	(2) 宮ヶ瀬ダム周辺における観光交流の促進
根拠法令等	
目的 (誰・何を対象に、何のために)	「宮ヶ瀬ダムナイト放流」を、全国から来場者を募り継続的に実施することにより、愛川町の観光資源を広く周知するもの。
内容・方法 (何をを行っているのか)	平成30年度においては、2,700人を超える申込者のうち、抽選で選ばれた約1,000人の来場者を対象に、宮ヶ瀬ダムのナイト放流(夜間の観光放流)をはじめ、ステージイベントや愛川ブランド認定品の出店、愛川第1発電所の見学などを実施した。 また、インクラインを稼働し、宮ヶ瀬ダムの天端(てんば)を開放するとともに、イベントのフィナーレを飾る花火の打ち上げも実施した。

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		基準年度	令和4年度			
	『観光・レクリエーションの振興』について「満足」と感じる住民の割合		28.9%	53.0%			
		入込観光客数	1,276,470人	1,360,000人			
(A) 総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果	町内はもとより、町外や県外からの来場者を多く集客し、宮ヶ瀬ダム周辺における観光交流を促進する。						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(平成28年度)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
イベント参加者数	増	イベント参加者数	計画値	/	500.0	800.0	800.0
			実績値(見込値)	200.0	830.0	1,000.0	1,000.0
			達成度※自動計算	/	166.0	125.0	125.0
(B) 成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動	イベントへの申込者数を増やすため、イベント開催の周知を図る。						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
イベント周知の媒体数	増	①新聞 ②町広報 ③HP ④ポスター・チラシ ⑤その他	計画値	/	2.0	5.0	5.0
			実績値(見込値)	/	2.0	5.0	5.0
			達成度※自動計算	/	100.0	100.0	100.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年) 8,300,000

年度	基準年度(決算) (平成28年度)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算見込)	令和元年度(予算)
(A) 事業費(円)	99,954	1,018,069	2,018,656	3,176,000
(B) 概算職員数(人)	0.136	0.324	0.320	0.320
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算	1,128,800	2,689,200	2,656,000	2,656,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算	1,228,754	3,707,269	4,674,656	5,832,000
単位当たりコスト ※自動計算	6,143.8	4,466.6	4,674.7	5,832.0
財源内訳(円)	特定財源			
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	148,000	545,000
一般財源 ※自動計算	1,228,754	3,559,269	4,129,656	4,040,000

4 事業の項目別評価(分析)

項目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 <small>(公費を投入して実施することが妥当な事業か)</small>	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において実施している事業との重複がない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている		
	受益に応じた負担は適正である		
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な事業である 上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 <small>(基準年と比較して成果が上がっているか)</small>	成果指標について平成30年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 <small>(なるべく費用をかけずに成果を上げているか)</small>	基準年度と比較して費用の縮減ができています (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増≤成果アップ	B
有用性 <small>(施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)</small>	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		良好に実施できている	

5 特記事項

当該事業は、愛川町を全国的にPRすることができる効果的なイベントであると考えます。今後は、来場者に飽きられないイベント内容の検討と地域経済の活性化がさらに高まる事業に育てる必要がある。

6 自己評価(担当課)

評価結果	現状維持
理由	愛川町のネームバリューを全国区にするためにも、継続してイベントを実施する必要がある。
今後の方向性	国土交通省相模川水系広域ダム管理事務所をはじめ、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団や県企業庁などと更に連携していきながら、魅力あるイベントを継続していきたい。 また、近隣自治体との連携をはじめ、参加者のさらなる安全確保対策などに充てる負担金の徴収を行うとともに、旅行者とのタイアップツアーの検討を進める。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	現状維持
今後の方向性に係る意見等	本イベントは、ダム周辺において夜間に実施されるものであり、参加者のさらなる安全確保が求められることから、所管課の方向性のとおりに、通路の照明設置・警備の強化等の安全対策や、これらの費用に充てるための参加者負担金の徴収を行い、引き続き事業を実施する。

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

国土交通省相模川水系広域ダム管理事務所などと連携し、魅力あるイベントに努めるとともに、参加者のさらなる安全を確保する必要があることから、照明数の増加や警備の強化等に充てるための参加料を徴収し、引き続き事業を実施する。
また、旅行者とのタイアップツアーについても、引き続き検討していく。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	現状維持
理由・改善方針	国土交通省相模川水系広域ダム管理事務所などと連携し、引き続き事業を実施する。 なお、魅力あるイベントとなるよう、旅行者とのタイアップツアーについて、引き続き検討するとともに、さらなる安全確保のため、参加者から参加料を徴収し、照明数の増加や警備の強化等に努める。